

発行所

社団法人 埼玉県電業協会

〒336-0031 さいたま市南区
鹿手袋4-1-7(建産連会館内)

TEL 048(864)0385

URL <http://www.saidenkyo.jp/>

E-MAIL kyokai@saidenkyo.jp

彩さいのかがやきの耀

第158号

平成22年1月26日発行

発行人 佐野良雄

編集人 広報委員会

(委員長 熊田弘信)

編集 日本工業経済新聞社

(埼玉建設新聞)

「自力で生き残りを模索する時代」



佐野会長

新しい年を迎え謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

一昨年秋から深刻化した世界同時不況の影響が、建設業界にも直撃して1年余経過しております。経済危機対策により多少の持ち直しが見られたものの、企業と家計、大企業と中小零細企業など、ねじれ現象も生じ、不況感が拭い去れないものであります。

我々業界は、価格競争が相変わらず激しく、適正な利潤を上げることが程遠い状況となっております。

加えて、昨年8月の政権交代により、大幅な公共工事の削減が民主党マニフェストに掲げられ、その後の政権の施政方針を見ても、更に先行きの厳しさを予想されるものとなっております。

世の中が急速に変化する中で、我々業界がどう位置づけられており、業界の中でどう生きてゆくか、個々の企業の対応、意思決定がますます重要となってきました。

このことを踏まえ、年頭に当たり、再考してみたいと思います。

高度成長が終わり、その後の手当として多額な国債、県債が発行され、この財源の大部分を使って、景気浮揚策に一番効果があるといわれていた公共工事が、大規模かつ多量に発注されました。建設業界はこれで多に潤い、利益の拡大、規模の拡大、業者数の増加をみました。バブル経済崩壊後もこの様なことが更に増幅していきました。そして、いつしか建設業界に仕事があるのは当たり前、利益をもたらしてくれるのは当たり前といった風潮に陥っていったのではと思います。こういった業界の体制が、現在、世間からの非難の的になっているのではないのでしょうか。

我々業界を取り巻く環境は、今後ますます厳しさを増すものと予測されます。全員が仕事量を確保していける時代は過去のものとなり、個々の企業がそれぞれの分野で、世の中の進展に確固たる技術力を持ち、進んでいくことが求められています。

顧客に対し、高機能、高品質、高効率なトータルシステムを適正価格、適正工期で提供し、更には新しいニーズを掘り起こして「顧客価値」の創造を行うことでもあります。このことは、先日行われた(社)日本電設工業協会会員大会の「大会宣言」

社団法人 埼玉県電業協会 会長 佐野 良雄

の第一番の目標でもありました。

高度成長に伴い、電気設備も多様化、高度化され、技術革新は顕著なものでした。これに携わる技術者にとって知識、技術の取得は多難となっておりますが、自らその取得に努める事を怠り、専門業者にお任せ状態にしてきた一面がなかったでしょうか。

今日、まさに「自力で生き残りを模索する時代」が到来しております。アウトソーシングするということは、学習の機会を他人に譲るということで、企業の将来にとって大切な技術、技能は企業内で熟成してこそ将来の発展につながるものだと思います。

私はこの時代に、電気工事業を営むもののあるべき姿として、思いつくままに列記させていただくと、

- ・材料価格、労務費、工事直接経費、会社経費などをすべて透明化した見積書を作成し、顧客に積算内容を説明し、納得をいただくこと。
- ・工事の品質を落とす結果となるような過度の価格競争にいたる低価格の提示を行わないこと。
- ・常に技術の向上、最新情報の取得には最大の努力をし、顧客の生活向上、環境対策などの良きアドバイザーとなること。
- ・企業コンプライアンスを確立し、また社会貢献に努めること。

などが考えられると思います。協会会員各位が、業界のリーダーとして模範となる行動をとっていただくよう切に希望しております。

本年もより一層のご支援ご協力をお願いし、皆様方のご多幸とご健勝を祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

佐野会長に知事表彰

当協会会長佐野良雄氏が建設業の産業団体の役員として長年にわたりその発展に尽力し、特に功績顕著であることから、埼玉県表彰規則に基づき産業功労者として、11月14日の県民の日に埼玉会館大ホールにおいて上田知事から表彰を受けました。誠におめでとうございます。



埼玉から新しい道を切り開く ～ 未来への投資 ～



上田知事

埼玉県知事

上田 清司

新年明けましておめでとうございます。社団法人 埼玉県電業協会の皆様におかれましては、健やかに

平成22年の新春をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

いよいよ「地域主権」へ大きく前進する年が始まりました。地方が自ら地方の事を決めるチャンスの到来であり、今年は大きな節目の年となります。

私は、埼玉での成功例を日本の未来を創るエネルギーの源「源動力」として全国に発信し、ゆとりとチャンスの拡大に全力で取り組んでいく決意です。

今、日本は経済危機に加え、環境問題、医療、福祉をめぐる不安など様々な課題に直面しています。私は「100年に一度の経済危機を言い訳にしない」という思いで県内経済の活性化、県民生活を守るセーフティネットの充実に最優先で取り組んでまいりました。

住宅ローン助成制度、太陽光発電の設置補助といった小さな投資で大きな波及効果を生み出す事業を実施。また、中小企業の資金繰りの支援を行う「緊急借換資金」の創設や猛威をふるう新型インフルエンザへの対策強化などを進めています。

多くの県民の皆様の参加がムーブメントを起こし、中でも「みどりと川の再生」は大きく前進しました。豊かなみどりと清らかな川が着実に再生されてきています。

また、去年は本県出身の方々が活躍されました。宇宙飛行士の若田光一さん、直木賞を受賞された北村薫さん、俳優の本木雅弘さん、ゴルフの石川遼選手などが私たちに大きな喜びとともに夢と希望と勇気を与えてくれました。

2010年、埼玉県は、将来を見据え、新たな活力を生む「未来への投資」を更に進めてまいります。

次世代産業として期待されている環境、介護、

福祉をはじめとした「新たな成長分野への集中的な投資」を行います。これによりイノベーションの追求、新分野進出や海外展開などに取り組む企業を積極的に支援してまいります。

また、社会を発展させていく基盤となるのが「未来の担い手の育成」です。子どもたちの成長期には、地域ぐるみの子育て支援や学校教育の充実は何よりも大切です。さらに若者の雇用を確保するとともに、医療、福祉、農業など人々の暮らしを守る生命産業の担い手を育成してまいります。

こうした未来の担い手たちが生きていく世界を守る、地球温暖化対策をはじめとした環境問題への対応は私たちの責務です。「みどりと川の再生」を拡大し、ライフスタイルの見直しや太陽光発電の普及など「埼玉版グリーン・ニューディール」を加速します。

私が知事に就任以来取り組んできた「安心・安全社会の実現」も更に進めてまいります。防災立県として危機管理防災センター（仮称）を整備するほか、医師・看護師不足への対応やがん対策など地域医療・保健の充実を図ります。

私は、少子高齢化が進む社会にあって、自ら行う「自助」と行政が行う「公助」に加え、「共助」が重要な役割を果たすものと考えています。県内でも元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支える「地域支え合いの仕組み」が広がっています。日本一の団体数を誇る「民間パトロール」や「みどりと川の再生」など県民運動もその一つです。

私は、こうした「共助」の取組を全県下に拡大させたいと考えています。そして、共助社会が実現される時、「未来への投資」は何十倍もの効果を生み出していくものと確信しています。

何事にもチャレンジするとき、道は開かれます。717万県民の力を結集し、「ゆとりとチャンスにあふれた埼玉県」の実現に一步ずつ確実に歩いていきましょう。

技術講習会

法令から安全面まで 内線規程と電気工事講習



12月3日、21年度第2回技術講習会を建産連研修センターで開催しました。冒頭、内山武司技術研究委員長が「協会では技術者の人材育成に力を入れている。本日の講習会は内線規程と電気工事のテーマで行われるが、JISとの関わりもあり、聴講した内容を仕事や資格試験に活かし、有意義なものにしていただきたい」とあいさつしました。

講師はSEEDO代表の関根康明氏。関根氏は昭和39年に制定された電気事業法や電気設備技術基準・解釈、内線規程の概要などについて解説しました。また、地中電線・架空電線、漏電遮断器と接地工事、低圧配線方法、電気設備と耐用年数などについて分かりやすく解説しました。

工事の安全で重要な「漏電遮断器と接地工事」のどこ

ろでは、移動式または可搬式の電動機械器具に供給する回路（労働安全衛生規則）と電圧60V超過で人の容易に触れる恐れのある金属製外箱の機械器具（電気設備技術基準）に漏電遮断器の設置義務が条文で明記されていることを解説。また、湿気の多い場所と水気のある場所を比較し、水気のある場所の方が感電の危険が高いとし、感電について人体に及ぼす影響は、体内を流れる電流（mA）×触れていた秒数が30を超えると危険度が非常に高まるとしました。

厳選した講義内容に受講生からは解り易く、とても参考になったと好評でした。



企業対策セミナー

顧客のニーズ先取り



10月29日、平成21年度企業対策セミナーをホテルブリランテ武蔵野で開催しました。冒頭、佐野良雄会長が「自民党政権から民主党政権へ歴史的な変革があり、建設業界にとっても先行きが非常に厳しい状況にある。今後生き残るためには従

来型の受け身の経営ではなく、顧客の気づかないニーズを先手を打って提案していくことが求められている。そのためには自社の技術力をさらに高め、特異性を活かすことが大事である。今回、電気設備工事の積算や県の総合評価方式の実施状況、エコアップ認証制度などについて県の担当の方から講演があるので、しっかり勉強して

いただきたい」と述べました。

続いて県県土整備部建設管理課の池田秀生課長が「今回のセミナーで総合評価方式の概要と実施状況について解説があるので、ぜひ理解していただきたい。電気設備工事は県土整備の基幹事業であり、地球環境問題の面でも産業発展の面でも必要不可欠な事業である。今後とも県土整備行政の推進に一層のご尽力をお願いしたい」とあいさつしました。

講演に移り、県県土整備部建設管理課建築技術・積算担当主任の石田美穂氏が「電気設備工事における工事費の積算について」、同課技術管理担当主査の古茂田裕一氏が「埼玉県総合評価方式の実施について」、県環境部温暖化対策課エネルギー対策・エコアップ担当主幹の木村勇氏が「埼玉県エコアップ認証制度について」それぞれ講演しました。

参加者からは、質問も出るなど、とても有意義なセミナーでした。

三県連絡会議

構想語るる協会に 県中央防災基地も見学

埼玉県電業協会、千葉県電業協会、神奈川県電業協会の21年度秋季三県連絡会議が11月24日、川越プリンスホテルで開催されました。会議では、三県ワーキンググループの中間報告や今後の協会のあり方などが話し合われました。また、会議に先立ち、川島町にある埼玉県中央防災基地の見学会が行われました。見学会では、県危機管理防災部消防防災課の梅澤寛史氏が埼玉県の防災の取り組み、県内5ヵ所ある防災基地の説明や防災用の備蓄物資の備蓄状況などを説明しました。また、各協会が県との防災協定に基づく協会としての取り組みを発表しました。

今回の三県連絡会議には、開催県の埼玉県電業協会から佐野良雄会長ほか10人が出席、神奈川県電業協会から内藤幸一会長ほか5人、千葉県電業協会から並木鷹男会長ほか4人が出席しました。

三県連絡会議では3県の各会長が所見を述べました。まず、県電業協会の佐野会長が「今年4月に協会は今後どこに向かっていくかを見極めるための三県ワーキンググループを設置した。さまざまな意見が出てくると思うが、協会は各会員企業が自力で体質改善をするためのサ

ポート役になっていきたい。また、1社では困難な官公庁への意見具申や要望などを積極的に行っていきたい」としました。

千葉県電業協会の並木会長は「われわれ電設業界は電気工事で生きてきたわけで、やはりこれをベースに今後の発展の基礎づくりをしていかなければならない。そのためにも、1日も早くビジョンを語るる協会になっていきたい」と述べました。

神奈川県電業協会の内藤会長は「公共事業の大幅削減、民需の低迷により地元中小企業はもちろん、大手ゼネコンも受注が大幅に落ち込んでいる。この流れは来年も続くだろう。この厳しい現実に向き合わなければならない。どうしていけば良いかを考えているが、今後生き残っていくための前提になるのは経営トップの将来構想と能力向上に尽きる」と述べました。

ほかの出席者からも協会運営や企業経営について建設的な意見が多数出され、意義のある会議となりました。



去る10月10日(土)財団法人埼玉県下水道公社主催の荒川下水道フェスタに出展参加しました。多くの子ども達、ご家族に来場頂き、特にソーラーバック工作ブース、高所作業車体験コーナーは予想以上の大盛況となりました。またエコ展示においても各メーカーの協力のもと多数の見学者に太陽光発電やLED電球等を知っていただくことができました。

子ども達がどれくらい電気に興味を抱いたか、またどのくらいの方々に電業協会の活動を理解して頂けたかは正直未知数ですが、人材育成委員会としての活動が盛況であったことは今後につながる成果といえるでしょう。

今回私が感じたことの一つに子どもの興味の持ち方があります。各々興味を抱くポイントは千差万別でも、そこに共通していたのは見返りや損得を期待しない、云わば「無償の好奇心」でした。彼らは親に褒められるから工作をしたかったのではなく、何かか貰えるから高所作業車に乗ったかったのではないのです。多くは普段得られない経験に、ただ「無償に」興味を持ったのであり、それ以上でもそれ以下でもないように感じました。言い換えればそれは偽りのない行動ともいえます。

昨今の情報化社会においては興味のネタは無限で且つ瞬時に得ることができます。その情報によって子どもだけでなく、大人も世相も日々変化しています。それは刺激的で便利で手放せない存在である反面、真偽が混在した中で素直に深い興味を持っていないこともあろうかと思えます。

しかし「無償の好奇心」によって得られた、モノを作り上げる達成感や太陽の下で突然動き出す電気の不思議、高所作業車からの風景などはそういったものとは別の、疑いのない感情として自分自身に受け入れられるのではないのでしょうか。なぜならそれは誰に強制されたものでもない自分自身で得たものだからです。

就職活動において学生は無数の情報から取捨選択を迫られます。選択できない者は路頭に迷います。本質を忘れ、

給与条件や福利厚生を就職の第一条件に挙げる学生や親も少なくありません。

確かにこれらの現実的な要素も無視できないのかもしれませんが、自分の「無償の好奇心」に気づき、夢ややりたい姿をもって「一生の仕事」として電設業界を選んでほしいと思います。自分のやりたいことがどのような形で社会に受け入れられるのか不安もあると思います。現在委員会で検討中の人材採用webサイトでは、次世代を担う人材の「無償の好奇心」をムダにせず、そういった不安を上手にサポートし指南していくことも必要なのだと感じました。また電設業界に興味や夢を抱き既に従事している者すべてが誇りと熱意を持ち、自ら成長できるような土壌を作っていくために優秀技術者の表彰制度も検討されています。

現実はこの不況下において、そんな余裕を持っていないとお叱りを受けることも多々あろうかと思えます。しかし人材確保・育成は企業の避けては通れない最重要課題のひとつです。長期的で明確な答えのないものかもしれませんが、それでも微力ながら人材育成委員会がその解決に一翼を担えればと考えています。そして、雇用と教育は最大の社会貢献でもあります。

「無償の好奇心」が夢を創り、そこから生まれる一人一人の自発的・主体的行動が連鎖してゆけば、企業価値ひいては業界の発展につながっていくのだろうと思えます。



写真左より ソーラーバック
ソーラーバック抽選場面
高所作業車体験

埼玉県優秀建設工事表彰

埼玉県が発注した建設工事について、優秀な成績で完成した建設業者、現場代理人等を技術の向上、適正な施工の確保の模範となるとして、毎年表彰をさせていただいております。

平成21年度の電気設備工事部門で、そのほとんどを電業協会会員が受賞しました。受賞した工事は次のとおりです。

平成21年度埼玉県優秀建設工事施工者表彰 (埼玉県知事表彰)

○優秀賞<設備部門>	埼玉電設(株)	08南部知的障害養護学校(仮称)普通教室棟改修電気設備工事(設備課発注)
○特別奨励賞<設備部門>	ムサン電機工業(株)	08南部知的障害養護学校(仮称)管理棟改修電気設備工事(設備課発注)

平成21年度企業局優秀施工業者等表彰 (埼玉県公営企業管理者表彰)

<工事施工者表彰>	(株)東電工業社	大久保浄水場北側外灯等電気設備工事(第一水道建設事務所発注)
○<主任技術者等表彰>	監理技術者 尾高 雄司	

平成21年度県土づくり優秀建設工事施工者表彰

○住宅課長表彰	(株)電成社	18県住川越北谷団地2工区電気設備工事
○設備課長表彰	小沢電気工事(株)	総技除)08大宮武蔵野高校太陽光発電設備設置工事
○荒川左岸南部下水道事務所長表彰	旭電気工業(株)	荒川左岸南部流域下水道終末処理場第2自家発電機棟築造電気設備工事
○営繕工事事務所長表彰	(株)沼尻電気工事	08こども動物自然公園変電設備改修電気設備工事

平成21年度県土づくり優秀現場代理人等表彰

○住宅課長表彰	現場代理人 関 浩 (株)電成社	18県住川越北谷団地2工区電気設備工事
○設備課長表彰	現場代理人 新島 美則 埼玉電設(株)	08南部知的障害養護学校(仮称)普通教室棟改修電気設備工事
	現場代理人 林 正之 ムサン電機工業(株)	08南部知的障害養護学校(仮称)管理棟改修電気設備工事
	現場代理人 細井 貴 小沢電気工事(株)	総技除)08大宮武蔵野高校太陽光発電設備設置工事
○営繕工事事務所長表彰	現場代理人 菅原 一彦 埼玉電設(株)	07不動岡新校(仮称)実習棟新築電気設備工事

<敬称略>

東部支部町村合併と市制の歴史

(越谷市・草加市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町)

協会だより
東部支部

東部支部長 (株)大広電気 代表取締役 熊田弘信

昭和28年 町村合併促進法が制定され

- ・越谷市域は越ヶ谷町を中心とした2町6村と新方村、大袋村、桜井村のグループですすでに合併となっていた、川柳村は草加町への合併を望んだが、村民の反対運動で一部地区は越ヶ谷町へ編入。昭和29年に合併が成立し、同33年に市制施行した。
- ・草加市域は、草加町、谷塚町、新田村、川柳村が合併し、安行村は川口市合併派と草加町合併派に分かれた結果、花栗、苗塚、北谷、小山、原地区を草加町へ分離合併。昭和30年合併が成立し、同33年に市制施行した。
- ・八潮市域では、潮止村、八條村、八幡村による合併が計画された。しかし八條村立野堀地区が草加町を希望したため分離合併となり、昭和31年3村合併し、昭和39年に町制施行し同47年に市制施行した。
- ・三郷市域では、昭和18年戸ヶ崎村、八木郷村の二か村と合併し東和村となり、その後彦成村、早稲田村と三村合併し、昭和39年町制施行し同47年に市制施行した。
- ・吉川市域と松伏町域は旭村が松伏領村と金杉村と三村合併する計画であったが、旭村が吉川町への合併を希望したため吉川町と三輪野江村と三か村で昭和

30年合併成立、平成8年市制施行した。

- ・松伏町は松伏領村と金杉村二か村で昭和30年に合併成立、同44年町制施行となる。

近世、草加、越ヶ谷には幕府道中奉行支配下にあった。

日光街道の宿場が置かれていた明治2年に関所の廃止、同4年鑑札制度の廃止、同5年宿駅制度廃止、交通機関として人力車や馬車であった。明治32年8月東武鉄道が北千住から久喜間が開通した。開業当初は停車場が草加、越ヶ谷に開設され、4ヶ月後には新田、蒲生の二駅が開設された。

大正14年10月、越ヶ谷駅まで電化が完成し、その後谷塚駅と大袋駅が開設された。昭和37年地下鉄乗り入れ、地下鉄日比谷線が北越ヶ谷まで延長された。一方当初貨物専用線として企画された武蔵野線が昭和48年貨客共用として開通した。

又、平成17年8月には、つくばエクスプレスが秋葉原・つくば市間に開通し、八潮駅と新三郷駅が設置された。

道路整備においては昭和42年草加バイパスが足立区保木間から越谷市下間久里間が開通した。

現在の人口

越谷市	325,676人	草加市	242,175人
八潮市	82,328人	三郷市	131,906人
吉川市	65,733人	松伏町	31,589人

等身大の会社経営術

(株)奥富電気工事 代表取締役 奥富 精一

Voice

新年明けましておめでとうございます。

さて、うちの会社は、小さな会社で、技術革新を推進したり、新しい分野に目を向けたり、価格を安くしたり、他の会社を出し抜いたりなどと言う事ができません。苦しいなど言われている時代にどうしたら良いかなど言う事を考えましたが、社会に生きる一員として、また、尊敬される父親としてとか、そういう人間が多い会社にすれば、大勝ちする事もないでしょうけど、誇り高い企業として存続できるのではないかと考えました。下に書いたことは自分への戒めであり、粋である為に、小さい会社みんなで楽しく行こう言う事を決めた事で、会社みんなで心がけてます。

題して、給料の少なくなる人はこう言う人！
 ■怒鳴る人 ■目を見て挨拶出来ない人 ■「では、どうする」の話が出来ない人 ■人のせいに、ばかりしている人 ■車とか机の上が散らかっている人 ■身だしなみの汚い人 ■渋い表情を出している人 ■出来る事をやらない人 ■やらない方向で話を進める人 ■期限がギリギリの人 ■相手ならどうするか考えられない人 ■取引業者に横柄な人 ■言った、言わない、の話をする人 ■自分を省みない人 ■ベストでは無いと出来ない人 ■自分の考え方を人に押し付ける人 ■朝来るのが遅く、帰るのも遅い人 ■電話をガチャンと切る人 ■権力を笠に着る人 ■自分を棚に上げ他人を小馬鹿にする人 ■靴を揃えられない人 ■人が見てないと悪い事をする人 ■自分の仕事では無い、と言う人 ■連絡

が取れない人 ■相談の出来ない人 ■相談して来た人に説教で返す人 ■「まあいいか」の判断をする人 ■親しき仲にも礼儀知らずな人 ■人が怒られているのを他人事で聞いている人 ■泥靴のまま、事務所に来る人 ■トイレの汚れをほったらかしにする人 ■お世話になった事を報告しない人 ■失敗を黙っている人 ■以上を俺の事じゃないと思っている人

私は、この頃、野暮ったいのは格好悪く、粋な計らいが格好良いと思っています。例えば、新明さんのカレンダーに「受けた恩は石に刻め、与えた恩は水に流せ」と書いてありました。なんか、格好良い言葉だなと思いましたし、忙しかったり苦しかったりするときでも、ニコニコ笑っている事が出来たら、粋だなあとか思ったりもします。私は、若輩者でなかなかこのようになれないですけど、後輩や子ども達にそういう風に思われる人間を目指して行きたいですね。ってこう言う事書く事が野暮って言うのかも。

最後に、楽しい事があると笑いますよね、って事は笑っていると楽しくなると言う事ですよね。

希望に満ち溢れた平成22年！皆様にとって、人生で一番素晴らしい一年になる事をご祈念申し上げます。



協会のうごき

10月

- 5日 人材育成委員会
- 10日 荒川下水道フェスタ
- 14日 第7回理事会
- 28日 三県ワーキンググループ会議
- 29日 企業対策セミナー

11月

- 6日 中間監査・総務委員会
- 10日 設備課との意見交換会
第8回理事会
- 24日 三県連絡会議
- 27日 人材育成委員会

12月

- 3日 第2回技術講習会
- 8日 第1回公益法人改革移行検討委員会
第9回理事会
第1回選挙管理委員会
役員懇親会
- 14日 人材育成小委員会[人材サイト]
- 17日 三県ワーキンググループ会議

1月

- 7日 新年官公庁挨拶回り
- 19日 埼玉県立入検査
- 20日 人材育成小委員会[表彰関係]
- 22日 人材育成小委員会[人材サイト]

2月

- 4日 技術研究委員会
- 5日 企業対策委員会
人材育成委員会
- 9日 第10回理事会
- 15日 広報委員会
- 16日 総務委員会
- 24日 事故防止対策委員会

3月

- 4日 三県ワーキンググループ会議
- 9日 第11回理事会

(社) 埼玉県電業協会会員

支部長◎ 副支部長○

さいたま支部 (16社)

- 旭電気工業(大宮区)
- 浦和電気工事(南区)
- 大塚電設(浦和区)
- ◎株岡村電機(緑区)
- 国益電設工事(南区)
- 埼玉電設(中央区)

(さいたま市)

- 三洋電設(南区)
- 新生電気工事(見沼区)
- 竹内電気(岩槻区)
- 株積田電業(浦和区)
- 中村電設工業(見沼区)
- 浜野電設(北区)
- 株万代電気工業(桜区)
- 瑞穂電設(北区)
- ムサシ電機工業(桜区)
- 株八洲電業(北区)

東部支部 (9社)

- 株内田電気商会(久喜市)
- 株大久保電気(越谷市)
- 島村電業(上尾市)
- 株新電気(三郷市)
- ◎株大広電気(八潮市)
- 大洋電設工業(越谷市)
- 株高岡電気工業(松伏町)
- 野口電気工事(越谷市)
- 株弓本電設(白岡町)

西部支部 (18社)

- 株新井電機(飯能市)
- 飯島電器工事(川越市)
- 株市之瀬電設(志木市)
- ◎株岡島電気商会(川越市)
- 株おぎでん(川越市)
- 熊田電気工事(狭山市)
- 株三共電気商会(和光市)
- 株関根電気商会(川越市)
- 相馬電業(和光市)
- 株電成社(川越市)
- 橋電(所沢市)
- 株橋本電工(所沢市)
- 浜田電機(坂戸市)
- フジヤ電気工事(川越市)
- 株松本電機(和光市)
- 株ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

- 高山電設工業(川口市)
- 株田部井電気(鳩ヶ谷市)
- 釣谷電機(川口市)
- 那須電機工業(川口市)
- 領家電設(川口市)

北部支部 (16社)

- イーテクノ(熊谷市)
- 株エコー(深谷市)
- 岡根電気工事(本庄市)
- 小沢電気工事(行田市)
- 共和電機(秩父市)
- ◎熊谷電機(熊谷市)
- 株栗原電機(深谷市)
- 霜田電気(皆野市)
- 中外電気工業(深谷市)
- 株東電工業社(熊谷市)
- 株沼尻電気工事(深谷市)
- 株早川電工(行田市)
- 松山電設(東松山市)
- ムサシ電機工業(行田市)
- 株羅進電気(深谷市)

南部支部 (11社)

- 内山電設(川口市)
- 株奥富電気工事(川口市)
- 川島電気(川口市)
- 株佐久間電設(川口市)
- 佐野電機(川口市)
- ◎三位電気(川口市)



雇用・能力開発機構では、雇用管理に関する事業を行っており、公的資格取得や能力開発のための各種事業及び助成金を行っていますので、お気軽に協会窓口まで、ご相談下さい。

独立行政法人 雇用・能力開発機構埼玉センター

〈雇用開発業務〉

良好な雇用機会の創出と雇用環境の改善を図るため、新分野進出の支援をはじめ雇用管理全般の相談・情報提供等を行うほか関連の助成金支給や勤労者の財産形成促進等を業務としています。

〈能力開発業務〉

離職者のための機動的な委託訓練コースや在職者に対する能力開発セミナーなど職業訓練を実施するとともにキャリア形成に関する相談・情報提供、助成金支給等を業務としています。

◆電話 048-882-4164(建設労働・財形担当)

◆FAX 048-882-4166

◆所在地 〒336-0931 さいたま市緑区原山2-18-8